

## 令和4年度 第一回長野市青少年健全育成審議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和4年7月15日（水）午前10時から正午まで
- 2 場 所 長野市生涯学習センター 4階大学習室3
- 3 出席者 委員8名、事務局11名
- 4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 委員の委嘱
- (3) 教育次長あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 会長あいさつ
- (6) 議 事（議事進行 会長
  - ① 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について
  - ② 少年育成センターの事業について
  - ③ （仮称）ながのこども館整備事業について
- (7) その他
- (8) 閉 会

## 5 会議録

### (1) 教育次長あいさつ

令和4年度 第一回長野市青少年健全育成審議会の開催にあたり、長野市教育委員会を代表して、あいさつを申し上げます。

本市では、「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」を教育の基本理念に掲げ、その基本的方向と基本施策の具体化を図るため、この4月に「第三次長野市教育振興基本計画」を策定した。この計画においては、基本的方向の一つに「共に学び合い育ち合う地域づくりの推進」を掲げている。少子化や核家族化の進行、インターネットなど通信機器の急速な普及などにより、青少年を取り巻く環境が大きく変わる中、青少年の健全育成には、家庭の教育力の向上や地域の支援が重要であると考えます。今後も、計画に基づき、家庭と地域、そして、学校が連携しながら、引き続き青少年の健全な育成に努めて参りたい。

また、今月は、「青少年の非行・被害防止全国強調月間」であり、全国一斉に行政、関係機関、地域住民等で啓発活動を実施している。本市においても、過日街頭啓発活動を行ったほか、FMぜんこうじや広報ながのへの記事の掲載といった広報活動を行っているが、引き続き、青少年の非行・被害防止への協力を呼びかけて参りたいと考えている。

最後になるが、今後とも、本市の青少年健全育成に、委員の皆様のより一層のご支援、ご協力を申し上げ、簡単ではあるが、あいさつとする。

## (2) 会長挨拶

青少年を取り巻く環境は相変わらず課題が山積しており大変である。とりわけここ2、3年はコロナ禍であるということが大きな問題だ。行動制限により、子どもの成長に必要な出会いなどの刺激が失われており心配である。また、コロナ禍で様々な問題が見えなくなっているということもあるかもしれない。我々大人はアンテナを高くして、子どもたちの様子をしっかり見ておくことが大事だと思う。この審議会が子どもたちのためになるよう、皆様のご協力をお願いしたい。

## (3) 議 事

### ア 報 告

#### (ア) 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について

（説明：事務局）

（資料：令和3年度家庭・地域学びの課（青少年担当）の主な事業実施状況及び令和4年度事業計画）

- ・リーダーの育成、指導者団体（長野シニアリーダーズクラブ、成人指導者の会、動く子ども広場「すこやか号」）について
- ・長野市青少年健全育成審議会、青少年健全育成行事、青少年健全育成事業（子どもわくわく体験事業補助金）、家庭教育力向上（家庭教育講座等）について

#### (イ) 少年育成センターの事業について

（説明：事務局）

（資料：令和3年度少年育成センター事業実施状況及び令和4年度事業計画）

- ・巡回指導活動、長野市青少年保護育成条例に関すること、少年相談活動、広報・啓発活動、研修活動、出前講座について

#### (ウ) (仮称) ながのこども館整備事業について

（説明：公園緑地課）

（資料：(仮称) ながのこども館整備事業について、リニューアル全体概要）

- ・設計及び施工者の選定について
- ・設計検討委員会の設置について
- ・対象年齢によるゾーニング

【質疑・意見】

協議事項①について

(委員)

子ども会のリーダー育成とあるが、最近は部活も出来なくなっているという話を聞く中、なかなか人が集まらないということだが、今後の取り組みについて教えてほしい。

(事務局)

子ども会のリーダーは、サブ（小学4～6年生）、ジュニア（中学生）、シニア（高校生）があり、サブとジュニアに8月に予定している子ども会キャンプに参加していただき、それをきっかけに活動に参加してもらいたいと考えている。今年も定員をオーバーする申し込みがあり、機会をとらえて加入者を増やしていきたい。シニアリーダーはサブとジュニアの活動を支えるという役割があるが、受験や部活動が忙しくて会員数が減少傾向にある。これについて今年度から、シニアリーダーを経験した社会人からなるリーダーズクラブと連携を図りながら会員数を増やしていきたいと考えている。

(委員)

シニアリーダーというのは研修をしたり、連携を取り合ったりする場があるのか。

(事務局)

シニアリーダーについては毎週水曜日の夕方6時から定例会があり、子ども会キャンプの進め方や研修会の企画などを行っている。

(委員)

いろいろな活動に参加できる子ども会の事業はとても良いと思う。参加した子どもの声分かるように広報などで知らせているのか。そうしたものを目にする事で興味がわき多くの子どもが集まってくるのではないかと。広報の仕方を工夫したらいいと思う。

(事務局)

ご意見を参考に、ホームページや広報を通して是非取り組んでいきたい。

(委員)

コロナ感染症のため、地域の色々な活動がストップしてしまっていて、活動に関わる事業の申請も前年度のおりで繋がってきたものが、ここ2、3年どんどん事業の数が減ってきてしまっている。先ほど他の委員がおっしゃったように、情報の周知徹底についてご対応いただくことが大切だと思う。もう一つ、昔からの学びや遊びについて周知するということについて、今、子どもや大人たちが最も興味関心があるインターネットに関する知

識もどんどん提供できるような具体的な動きがあるのかどうかお聞かせいただきたい。何年前には、PTA連合会でインターネットの使い方などいろいろやったのだが、PTAの動きだけでなく子ども会リーダーの身近なお兄さんお姉さんがから聞くこと、成人指導者の方から聞くネットのことなども入れ込んでいただけたらいいのではないかと。

(事務局)

シニアリーダーからネット依存などについては特に取り組んではないが、何らかの形でコラボできるのか今後の課題として検討させていただきたい。

## 協議事項②について

(委員)

GIGAスクールについて、市から子どもたちに端末を使うようにということで、今までとは逆の方針が出ている。これは行政の責任において使わせなければいけないということで、非常に難しいことと思う。コロナの影響もあり、メディアリテラシーに関する研修講座数が減っていると思う。ギガスクールが始まるということで、ここを徹底的に増やして、子どもたちを守る意味でもメディアリテラシー教育を徹底的にやってから使わせるという環境が必要だが、今までとの違いがよく見えない。それから有害図書に関して訪問して、昔ながらの方法でやっているかと思うが今の子どもたちは本ではなく、インターネット上で見ているのであんまり意味がある事業とは思えない。それからセンターのチラシの中の相談電話について、月曜日から金曜日の8時半から5時15分までというのはお役所の営業時間の相談しか受けていない。本当にこれで大丈夫なのか。長野チャイルドラインとかそういうところと提携して、24時間、365日の体制で相談を受けられる環境を整えてあげないと、自殺防止という点で手遅れになってしまうと感じる。相談を受ける体制、人と人とで子どもたちの悩みを受けてあげること、非常に大変だと思うが力を入れて、お金をかけてやっていくことではないかと思う。

(事務局)

端末のことは学校教育課と連携を図りながら子どもたちが持ち帰るにあたってのモラルや適正な使い方について対策を検討していきたい。有害図書の見回りについては、実際は子どもたちがインターネットで有害なサイトに触れることの方が多かろうと思うが、育成センターへ保護者の方から相談をいただくこともある。インターネットと併せて有害図書の見回についても対応していきたい。相談体制については、少年育成センターの相談窓口は役所の営業時間ではあるが、他の相談窓口があるということの市民への周知を含め、連携しながら情報の共有ができるようにしていきたい。

(委員)

連携ということでは、育成センターではどんなことをしているのか。

(事務局)

例えば教育センターにある窓口は相談の時間帯が長く、建物も隣接していて、今まで連携を取り合ってきた。お互いの専門性を活かして情報を伝えたり、繋いでいったりしてきた。役所の営業時間ではあるが、いままで年間20から30の相談を受け、それなりの成果があったと思う。今年度から、子ども総合支援センターがスタートした。今後は、連携というよりは（少年育成センターの）専門性を活かしていけたらいいと思っている。使いやすさの面での子ども総合支援センターの利用状況結果が出るのはもうしばらくしてからと思う。いずれにしても子ども総合支援センターとは情報を共有していきたい。

(委員)

最近では罪を犯す人は家庭で虐待されているなど、学校でのいじめも様子がなかなか見えないことが多い。行為だけでなく心の状況については市の職員だけで対応するのは大変なので、是非早く総合的な対応がとれるようにしてほしい。

(委員)

少年相談専門委員会で、学校の先生が集まって生徒指導のことについて話し合っているというお話であった。成年年齢が18歳に引き下げになってまだ数ヶ月しかたっていないが、高校3年生の中に成年の人が出てくると親権が及ばないということで、生徒指導上で問題が出ているとか、困ったことがあるとかという情報はないか。

(事務局)

4月から引き下げになったが、それに関わっての事件や事案は直接には聞いていない。先週、中学・高校・特別支援校の先生方との会議があり、消費生活センターに講師をお願いし、成年年齢が下がることで予想される問題についてお話を伺う機会があった。中学校の先生方からは、中学のうちからやっておかなければいけない教育という感想もあった。今後、中学や高校の様子を聞いていこうと思うが、タイムラグもなく長野市でもどこでも似たような問題が起きてくると予想される。アンテナを高くして対応していきたい。

(委員)

消費者被害も勿論だが、引き下げの中で懸念されていたのは、生徒指導がうまくいかないということであったので、今後注視していただきたい。

### 協議事項③について

(委員)

子どもが小さい頃少年科学センターはよく利用させていただき、思い出に残る場所となっているが、今後の工事の後はワークショップがあるなど、理科的な部分も相当含まれているようだが、スタッフとか講師の構想とか人的なことでどんな計画があるのか。少年科学センターとは違った点があるのか教えていただきたい。

(事務局)

令和6年度の早いうち、ゴールデンウィークには開館したいと思っている。少年科学センターと同じように指定管理制度により運営したいと考えているが、従来の少年科学センターの時にはサイエンスショーや工作教室で多い時は1回に50人くらいが参加していた。科学のエッセンスというか科学センターであったということを十分残してほしいという声もよく聞くので、そういったことの継続性ということ、指定管理を募集する条件の中に入れて従来のイベントも行いながら館の運営をしていきたいと考えている。

(委員)

科学に限らず情報とか環境とか新しいこと、未来に関わること、SDGsとかに向かっていけるようなことといった意味で、名前も子ども未来館といった科学と繋がりのあるようなものにしていくといいかと思う。

(事務局)

地下1階のサイエンスショーとか1階のイベントスペースの使い方というのはあまり限定しないで、色々な人が入ってやっていけるような仕様にしたいと思っている。名称も今後どんな風に決めていくかということについては今のご意見も参考にしていきたい。

### 全体をとおして

(委員)

錬成センターでキャンプとかをやられて、環境にやさしいというのが流行りだが、そういう視点で昔と比べて変わってきていることは有るのか。キャンプと言えばカレーだが、米をといたら水を捨てなければいけない。汚れた食器を洗って水を流さなければいけない。火を焚いて環境にいいのかということもある。そういうことに子どもたちが気づけるような、「環境を大事にするにはこういうことが必要」というキャンプもやってみると面白いかなと思った。

(事務局)

今年の長野市子ども会キャンプはまだ計画段階だが、工作を行う中で、できれば廃材を

利用した作品を作ってみたいと考えている。例えば食事につかった割りばしをそのまま火にくべてしまうのではなく、よく洗って割りばし鉄砲を作るとか、そんな考えも持っている。成人指導者の会という工作の指導者の会が長野市にはあるが、そこではSDGsを意識しているいろいろなものを大切に使い、廃品や廃材を再利用して違った遊びに活用していくといった体験を、工作を通して子どもたちにさせていきたいということを基本的な考えとして活動している。